



鮎釣りの聖地

勝山



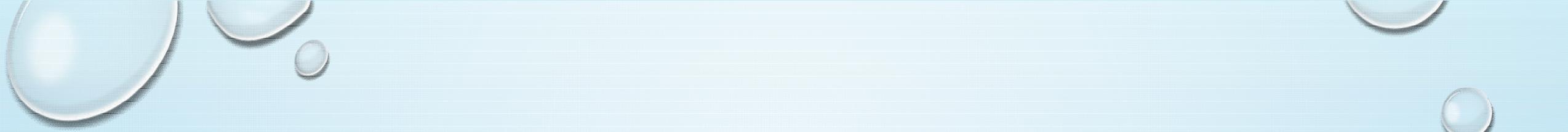
勝山市の鮎

激流で育つ鮎は格別



鮎釣りにおける勝山の魅力

- **高校生以下、女性釣り無料**
- **様々な川相の場所がある**
- **釣った鮎が売れる**
- **鮎がおいしい**



しかし

年々鮎が釣れなくなっている



原因

天然アユの遡上が減っている

2013年は290匹、2018年は39匹と激減

現在の対策

漁協が稚アユを放流している
が効果なし



鮎が減っている他の川の対策

- 魚道の整備 ○
- 鮎の産卵場を作る ×
- 稚魚放流をやめる ○
- 発電所からの放水量の安定 ○



稚魚放流を辞める理由

勝山にいた鮎は勝山の川に適応した遺伝子を持っているが、放流した鮎と交配した場合、勝山の川に適応した遺伝子が失われるため

発電所からの放水量の安定とは

- 川の水位に大きな差があると鮎の産卵した浅瀬が干上がってしまい卵が孵化しなくなるため

経済波及効果が年間12億7,000万円

- 釣り1回で消費する金額は平均6,095円。
- 糸や針などの仕掛け代3,503円＋飲食費949円＋「友釣り」でおとりにするアユの購入費が921円
- ほとんどが県内で支払われていた。

• 出典：[那珂川水系：アユ釣りの経済効果 12.7億円 - 毎日新聞](#)

最後に

「一時間、幸せになりたかったら酒を飲みなさい。」

「三日間、幸せになりたかったら結婚しなさい。」

「八日間、幸せになりたかったら豚を殺して食べなさい。」

「永遠に、幸せになりたかったら釣りを覚えなさい。」

「勝山アユ釣り体験教室」 7/21(日)

- 参加者2組に1人釣りインストラクターがつき、おとリアユ1匹提供
- 昼食時に勝山天然アユの塩焼き、おにぎりを提供
- 釣ったアユは持ち帰りできる
- 釣り道具やウェーダーあり 道具持参O.K